

学校法人 **南京都学園**

令和7年度 **事業報告書**



京都府相楽郡精華町下狛中垣内 48

学校法人 **南京都学園**

理事長 本部 広樹

監査報告書

令和8年5月29日

学校法人 南京都学園
理事会 御中
評議員会 御中

学校法人 南京都学園

監事 木村直義 

監事 林田洋 

私たちは、学校法人南京都学園の監事として、私立学校法第52条第1項第1号及び学校法人南京都学園寄附行為第28条の規定に基づいて、同学園の令和7年度（令和7年4月1日から令和8年3月31日まで）における財産目録及び計算書類等（資金収支計算書、活動区分資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び付属明細書、事業報告書及び付属明細書）を含め、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、理事の業務執行は適切であり、学校法人の業務及び財産並びに理事の業務執行に関し、不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

目 次

I	法人の概要	
1.	学校法人南京都学園の沿革	1
2.	教育理念	
3.	学園訓	
4.	学園の教育の目的	
5.	設置する学校の概要	
6.	設置する学校の課程・学科の入学定員、生徒数の状況	
7.	役員・教職員の概要	
	1) 役員	
	2) 評議員	
	3) 教職員	
II	事業の概要	
1.	京都廣学館高等学校	5
	1) 令和7年度の事業の概要	
	2) 令和7年度の主な事業の目標、進捗状況	
2.	京都福祉専門学校	18
	1) 令和7年度の事業の概要	
	2) 令和7年度の主な事業の目標、進捗状況	
3.	京都動物専門学校	26
	1) 令和7年度の事業の概要	
	2) 令和7年度の主な事業の目標、進捗状況	
III	財務の状況	
1.	令和7年度の財務状況	34
	(1) 貸借対照表	
	(2) 事業活動収支計算書	
	(3) 資金収支計算書	
	(4) 財産目録	
	(5) 資金収支・事業活動収支対比	
2.	令和3年度以降の財務状況経年比較表	39
	(1) 貸借対照表	
	(2) 事業活動収支計算書	
	(3) 資金収支計算書	

I 法人の概要

1. 学校法人南京都学園の沿革

昭和 48. 3. 29.	南京都学園予備校 設置認可
50. 3. 31.	学校法人 南京都学園 認可
	南京都学園予備校 (昭和 48 年 4 月～昭和 55 年 3 月)
53. 12. 5.	南京都幼稚園 設置認可 (昭和 54 年 4 月～昭和 60 年 3 月)
昭和 55. 1. 25.	南京都商業高等専修学校 設置認可 (昭和 55 年 4 月～昭和 59 年 3 月)
58. 12. 13.	南京都高等学校 全日制課程普通科 設置認可
平成 8. 1. 11.	京都福祉専門学校 教育・社会福祉専門課程介護福祉科 設置認可
8. 11. 15.	京都デザイン・ビジネスカレッジ 工業専門課程 商業実務専門課程 服飾・家政専門課程 設置認可
14. 4. 1.	京都デザイン・ビジネスカレッジ を 京都情報ビジネス住環境専門学校 に校名変更
21. 4. 1.	京都情報ビジネス住環境専門学校 を 京都動物専門学校 に校名変更
25. 4. 1.	南京都高等学校 を 京都廣学館高等学校 に校名変更
26. 1. 17.	京都廣学館高等学校 通信制課程 設置認可

2. 教育理念

人間の能力は生まれつきのものでなく

その人の努力によって開発され、無限に伸ばされる

(昭和 28 年 3 月 18 日)

3. 学園訓

愛・信・敬

本学園は、学生・生徒の守るべき学園訓を愛・信・敬とした。

- 一、他人^{ひと}を愛し 他人^{ひと}を信頼し 他人^{ひと}を尊敬する 人間^{ひと}に私はなりたい
- 二、他人^{ひと}から愛され 他人^{ひと}から信頼され 他人^{ひと}から尊敬される 人間^{ひと}に私はなりたい
- (昭和 62 年 4 月)

4. 学園の教育の目的

愛情と信頼と尊敬に充ちた教育を通じて、個性を伸ばし、能力を開発し、自立と向上心ならびに互助協力の精神を培わせ、徳・体・智の調和のとれた人格の形成を図り、平和で民主的な国家及び社会に貢献できる人間を育成することを目指している。

5. 学校法人の土地・建物面積

令和7年4月1日現在

学校名	所在地	土地面積(m ²)	建物面積(m ²)
京都廣学館高等学校	京都府相楽郡精華町大字 下狛小字中垣内 48 番地	61,245	12,045
京都福祉専門学校	京都府宇治市小倉町春日森 25	1,860	1,937
京都動物専門学校	京都市伏見区桃山福島太夫西町 6	1,732	2,286
法人部門	京都市伏見区桃山筒井伊賀西町 21	465	611
合 計		65,302	16,879

令和7年度中の変更事項 京都府相楽郡精華町下狛長芝 16-5 248 m²を取得した。
法人部門の土地 465 m² を退職給与引当特定資産とした。

6. 設置する学校の課程・学科の入学定員、生徒数の状況

令和7年5月1日現在

学校名	課程	学科名	学則定員 (募集定員)	1年	2年	3年	合計
京都廣学館高等学校	全 日 制	普通科	1,320 (240)	218	166	209	593
	通 信 制	普通科	360 (120)	48			48
京都福祉専門学校	教育・社会福祉専門	介護福祉科	80 (40)	27	29		56
京都動物専門学校	商業実務専門	グルーミング 学 科	80 (40)	40	34		158
		愛玩動物看護 学 科	105 (35)	28	30	26	
合 計							855

7. 役員等・教職員の概要

1-1) 役員

令和7年4月1日現在

役職	氏名	役職	氏名
理事長 理事 理事 理事 理事	本 部 広 樹 瀧 野 博 史 平 尾 克 英 木 原 茂 弘 中 西 紳 也 本 部 真理子	理事	田 井 道 治 小 野 貴 志 山 中 隆 央
		監監	林 田 洋 木 村 直 義

1-2) 役員等

令和7年5月30日より

役職	氏名	役職	氏名
理事長 理事 理事 理事	本 部 広 樹 瀧 野 博 史 平 尾 克 英 木 脇 原 坂 正 宏	理事	本 部 真理子 中 西 紳 也
		監監	林 田 洋 木 村 直 義
		会計監査人	松 元 貞 人

* 令和7年4月1日施行の私立学校法及び寄附行為の改正に伴い、令和7年5月30日改選実施。

2-1) 評議員

定数19名 現員19名 . . . 令和7年4月1日現在

2-2) 評議員

定数 8名 現員 8名 . . . 令和7年5月30日より

* 令和7年4月1日施行の私立学校法及び寄附行為の改正に伴い、令和7年5月30日改選実施。

3) 教職員

令和7年5月1日現在

	専任 教員	兼任 教員	専任 助手	兼任 助手	専任 職員	兼任 職員	嘱託 常勤職員	嘱託 非常勤職員	学校 歯科医 (兼務)	学校 医 (兼)	学校 薬剤師 (兼)	合計
法人本部					9	1	3					13
京都廣学館高等学校	44	10	2		4	6	2	1	(1)	(1)	(1)	69
京都福祉専門学校	3	21		2	2	1	2					31
京都動物専門学校	9	14		10	3	1						37
合計	56	45	2	12	18	9	7	1	(1)	(1)	(1)	150

II 事業の概要

1. 京都廣学館高等学校

1) 令和7年度の事業の概要

- (1) 建学の精神に沿った地域貢献、進路結果、部活動などでの成果を実現し、本校のブランディングを強化することによって、生徒募集状況、学校収益の改善に努めた。新しい修学支援制度を活用した推薦制度を創設し、山城南部地域のみならず、大阪府、奈良県への募集活動を強化した。
- (2) クエストコースの安定した入学者数を獲得するとともに、クエストコースの弱点を補強するため、サポート校（塾）との連携を検討したが、新しい修学支援制度が導入されたことにより、サポート校にとっての逆風となり実現できなかった。
- (3) 生徒・教職員が安全に安心して学校生活を送り、勤務できる組織と風土を構築し、生徒・教職員の健康増進及び教育効果の向上を目指し、令和7年度3学期より、実験的に校時表を変更し、教育活動に取り組んだ。
- (4) 生徒数

(全日制) < 593名 18クラス >

令和7年5月1日現在 (単位:人)

		1年		2年		3年		合計	
		在籍者	学級数	在籍者	学級数	在籍者	学級数	在籍者	学級数
アドバンス	男	45	93	38	69	49	97	132	259
	女	48		31		48		127	
ジェネラル	男	99	125	66	97	82	112	247	334
	女	26		31		30		87	
合計		218	7	166	5	209	6	593	18

(通信制)

令和7年5月1日現在 (単位:人)

		2025年度生		2024年度生		2023年度以前生		合計	
		在籍者	在籍者	在籍者	在籍者	在籍者	在籍者		
Step-up	男	/	/	0	0	3	3	3	3
	女	/	/	0		0		0	
クエスト	男	9	15	14	17	11	13	34	45
	女	6		3		2		11	
合計		15		17		16		48	

※各種生徒数調査と同形式

(5) 主な学校行事
(全日制課程)

月	行 事	月	行 事
4	始業式・入学式・入門式 オリエンテーション・クラブ紹介 全校模試・健康診断	10	少林寺拳法大会・オープンキャンパス 中間考査・英語検定一次・模擬試験 漢字検定
5	京都府高校総体壮行会・避難訓練 中間考査・模擬試験・教育協力会総会 3年保護者等対象進路説明会 英語検定一次	11	創立記念日・大学見学 入試説明会・模擬試験 研修旅行説明会・入試説明会
6	漢字検定・3年本部研修・歯科検診 内科検診	12	期末考査・終業式・数学検定 入試説明会・冬期講習
7	期末考査・模擬試験・終業式 塾対象説明会・夏期講習・三者面談 ・救急救命講習	1	始業式・模擬試験・卒業考査 英語検定一次・文章検定・漢字検定
8	夏期講習・三者面談・模擬試験 アドバンス学習合宿・学校生活アンケート ・始業式	2	2年保護者進路説明会・漢字検定 入学試験・性教育・2年研修旅行 1年校外学習・卒業証書授与式
9	ニュース時事能力検定・模擬試験 京都廣学館祭・オープンキャンパス	3	学年末考査 修了式・新入生登校日

(通信制課程) ステップアップコース

月	行 事	月	行 事
4	前期始業式 健康診断	10	薬物乱用防止教室 性教育
5	避難訓練 教育協力会総会	11	創立記念日
6	特別活動 内科検診 歯科検診 集中スクーリング	12	
7	集中スクーリング 前期単位認定試験	1	集中スクーリング 後期単位認定試験
8		2	
9	特別活動 前期終業式	3	卒業証書授与式

(通信制課程) クエストコース

月	行 事	月	行 事
4	入学式 自由登校日	10	秋期集中スクーリング 自由登校日 高大連携 三者面談
5	自由登校日 教育協力会総会	11	創立記念日 秋期集中スクーリング 自由登校日 高大連携
6	自由登校日 健康診断 高大連携	12	冬期集中スクーリング 自由登校日 高大連携
7	自由登校日 高大連携	1	自由登校日 高大連携 単位認定試験
8	夏期集中スクーリング	2	自由登校日 高大連携 追試 入学試験①
9	秋期集中スクーリング 自由登校日 高大連携	3	成績発表 履修登録相談 高大連携 卒業証書授与式 入学試験②③

(6) 令和7年度全日進路状況 (卒業生209名)

全日進路 コース別進路一覧

進学先								
アド合計	97		ジェネ合計	112		学年全体	209	
大学・短大	62	64%	大学・短大	47	42%	大学・短大	109	52%
専門学校	30	31%	専門学校	44	40%	専門学校	74	35%
就職	4	4%	就職	18	16%	就職	22	11%
その他	1	1%	その他	3	2%	その他	4	2%
合計	97	100%	合計	112	100%	合計	209	100%

大学・短期大学受験方法								
アド合計	62		ジェネ合計	47		学年全体	109	
一般選抜	7	11%	一般選抜	0	0%	一般選抜	7	7%
公募制推薦	16	26%	公募制推薦	1	2%	公募制推薦	17	16%
総合型選抜	18	29%	総合型選抜	2	4%	総合型選抜	20	18%
指定校	19	31%	指定校	37	79%	指定校	56	51%
特別推薦	2	3%	特別推薦	7	15%	特別推薦	9	8%
合計	62	100%	合計	47	100%	合計	109	100%

全日制大学・短期大学合格者一覧

一般入試選抜		アド ジェネ		アド ジェネ		
京都市立芸術大学	音楽学部	1		同志社大学	スポーツ健康科学部	1
立命館大学	産業社会学部	1		同志社大学	経済学部	1
	政策科学学部	2			グローバル地域文化学部	1
同志社女子大学	学芸学部	1			社会学部	1
京都橋大学	工学部	1		摂南大学	現代社会学部	1
森ノ宮医療大学	総合リハビリテーション学部	1			国際学部	2
大阪電気通信大学	情報通信工学部	1		大阪経済法科大学	国際学部	2
	総合情報学部	1		藍野大学	医療保険学部	2

学校推薦型選抜(公募制)		アド ジェネ		アド ジェネ			
近畿大学	経営学部	1		龍谷大学	経営学部	1	
	生物理工学部	1	2		経済学部	5	
	総合社会学部	2			看護学部	4	
	文芸学部	3			経営学部	2	
京都産業大学	法学部	2		摂南大学	経済学部	3	
	文化学部	5			現代社会学部	1	
武庫川女子大学	経済学部	3				国際学部	6
阪南大学	建築学部	1				法学部	1
大阪経済法科大学	国際学部	4			薬学部	6	
	経営学部	3		京都橋大学	工学部	2	
	経済学部	3			デジタルメディア学部	2	
	国際学部	4		大阪工業大学	工学部	1	
京都光華大学	健康科学部	1			知的財産学部	2	
帝塚山大学	現代生活学部	2		大阪産業大学	建築・環境デザイン	3	
奈良学園大学	保健医療学部	1		大谷大学	社会学部	2	
					文学部	2	

学校推薦選抜(指定校)		アド ジェネ		アド ジェネ		
摂南大学	現代社会学部	1		佛教大学	社会福祉学部	1
天理大学	人文学部		2		社会学部	1
畿央大学	教育学部	1		阪南大学	経営学部	1
大谷大学	教育学部	1		奈良学園大学	人間教育学部	2
	文学部	1			保健医療学部	2
京都先端科学大学	経済経営	1		大阪学院大学	経営学部	3
	人文学部	1		大阪成蹊大学	国際観光学部	1
大阪産業大学	システム工学部		1	大阪経済法科大学	経営学部	2
	経営学部	1			経済学部	1
	建築・環境デザイン学部	1			国際学部	1
京都光華大学	健康科学部	1		大阪商業大学	総合経営学部	1
京都文教大学	こども教育学部	2	1	関西福祉科学大学	健康福祉学部	1
	総合社会学部	1	2		経済経営	1
	臨床心理学部	1		帝塚山大学	心理学部	1
四天王寺大学	経営学部		1		法学部	1
奈良大学	社会学部		1	花園大学	文学部	3
	文学部		2	明治国際医療大学	看護学部	1
関西国際大学	教育学部		1	関西外国語大学	短期大学部	1

総合型選抜		アド ジェネ		アド ジェネ		
立命館大学	デザイン・アート学部	1		佛教大学	保健医療技術学部	1
畿央大学	教育学部	1		大阪産業大学	スポーツ健康学部	1
大阪学院大学	経済学部	1		大谷大学	教育学部	1
大阪総合保育大学	児童保育学部	1			社会学部	1
	短期大学部	1		京都芸術大学	芸術学部	1
奈良学園大学	人間教育学部	1		京都精華大学	デザイン学部	1
	保健医療学部	2		奈良大学	文学部	1
四條畷学園大学	リハビリテーション学部	1		四天王寺大学	教育学部	1
帝塚山大学	法学部		1	平安女学院大学	子ども教育学部	1
びわこ成蹊スポーツ大学	スポーツ学部		1	大阪国際大学	短期大学部	1

特別推薦(クラブ推薦等)		アド ジェネ		アド ジェネ		
同志社大学	スポーツ健康科学部	1		国士舘大学	体育学部	1
日本体育大学	体育		1	京都産業大学	経済学部	1
京都橋大学	デジタルメディア	1		大阪産業大学	スポーツ健康学部	1
大阪学院大学	法学部		1		経営学部	1
びわこ成蹊スポーツ大学	スポーツ		1	広島文化学園大学	人間健康	1

全日制 専門学校 進路一覧

学校名	人数
京都福祉専門学校	2
京都動物専門学校	10
(専) 京都中央看護保健大学校	1
〈専〉 YIC 京都工科自動車大学校	2
ESA 音楽学院専門学校	2
YIC 京都ビューティ専門学校	2
ヴェールルージュ美容専門学校	1
ハートランドしぎさん看護専門学校	1
ル・トーア東亜美容専門学校	4
関西学研医療福祉学院	1
京都コンピュータ学院	3
京都デザイン&テクノロジー専門学校	4
京都ホテル観光ブライダル専門学校	1
京都医健専門学校	2
京都公務員&IT会計専門学校	4
京都調理師専門学校	1
京都理容美容専修学校	2
彩ビューティカレッジ	1
専門学校トヨタ神戸自動車大学校	1
専門学校トヨタ名古屋自動車大学校	1
専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー	1
専門学校日産京都自動車大学校	5
大原学園専門学校	1
大阪 ECO 動物海洋専門学校	2
大阪アニメーションカレッジ専門学校	1
大阪ウェディング&ブライダル専門学校	2
大阪こども専門学校	2
大阪リゾート&スポーツ専門学校	1
大阪航空専門学校	3
大阪行岡医療専門学校長柄校	1
大阪自動車整備専門学校	1
辻調理師専門学校	2
田北看護専門学校	1
奈良リハビリテーション専門学校	1
日本ナレーション演技研究所	1
日本分析化学専門学校	1
履正社国際医療スポーツ専門学校	2
計	74

全日制 就職先一覧

企業・行政機関等名	人数
カツシロマテックス株式会社	1
京阪電気鉄道株式会社	1
内外化成株式会社 研究開発センター京都工場	1
磯矢硝子工業株式会社	1
日本郵便株式会社 近畿支社	1
株式会社エクセディ機工	1
株式会社スズキ自販京都	1
NK クリート株式会社	1
大和土木株式会社	1
巽農園	1
特別養護老人ホーム サンタ・マリア	1
株式会社印南工業	1
株式会社三光リース	1
北大阪高等職業技術専門校	1
株式会社真栄建設	1
将健	1
岡田鉄筋工業株式会社	1
国税庁	1
京都府警察	1
奈良県警察	1
相楽中部消防組合	1
自衛隊	1
計	22

通信制 クエストコース 進路一覧 卒業生9名（令和8年3月31日現在）

進路	人数	大学名・校名・企業名
大学	1	京都産業大学
	1	京都光華大学
	1	ZEN 大学
	1	長浜ハイツ大学
	1	帝塚山大学
専門学校	2	YIC 動物看護専門学校
	1	京都コンピュータ学院
就職	1	縁故(ネリ関係)

通信制 ステップアップコース 進路一覧 卒業生2名（令和8年3月31日現在）

進路	人数	大学名・校名・企業名
大学	1	京都文教大学
専門学校	1	京都コンピュータ学院

(7) 令和8年度 生徒募集状況

令和8年3月31日現在

全日制			出願者(人)	合格者(人)	入学者(人)
試験区分	前期	専願 (推薦含)	155	154	154
		併願	361	324	6
	後期	専願	3	2	2
		併願	183	162	10
	前後期	専願	36	32	32
		併願	46	39	1
合計			784	713	205
コース	ジェネラルコース		444	424	107
	アドバンスコース		340	289	98
	合計		784	713	205

通信制	出願者(人)	合格者(人)	入学者(人)
新入学	19	19	17
編入学	0	0	0
合計	19	19	17

2) 令和7年度の主な事業の目標、進捗状況

(1) 教育内容の充実

①アドバンスコース

ゼミ運営：受験指導に向けて、放課後や長期休暇にゼミ(学習会)を実施した。検定前には英語科主催の検定対策講座を開講し、検定合格に向けた取り組みも進めた。クラブ所属生徒の参加状況が芳しくなく、今後より多くの生徒が参加しやすいように改善を進めたい。

朝学習：学習習慣の継続と基礎学力定着を目指して取り組んでいる。モーニングテスト(英単語・漢字)やコラム学習に取り組むことで、その習慣確立を目指している。3年生になると複数のテキストから選択し、個に応じた学習機会を提供することができた。

学習合宿：1,2年生については学習習慣の確立と自分の学びの取り組みをより深いものとするため、3年生については学校推薦型選抜や一般選抜を見越した学習に取り組むことができた。一方で合宿費用の高騰(宿泊費・施設使用料等)の状況もあり、費用の徴収だけでなく、会場や取り組み方も改善をしながら、この学習機会を提供し続けたい。

大学見学：1年次には近畿大学東大阪キャンパス、2年次には関西大学千里山キャンパスでの大学見学会を実施した。この経験をもとに志望校を決めた生徒もおり、大学の環境、施設、学びの様子を知るには貴重な機会

ある。今後も継続していく予定である。

進学講話：今年度は卒業生との日程調整がうまくいかず、実施することができなかった。しかし実際に受験を通じて合格を勝ち取った先輩からの体験談・経験談を聞くことは今後の学習に反映できること、モチベーションの向上など前向きな作用もあることから卒業生とのコンタクト方法も考慮しながら実施したい。

検定試験：各検定の学年目標級をコースで設定し、受験することになっている。今後の入試制度を考えた時に検定取得の意義は大きい。英語検定においては英語科主催の検定対策講座に積極的に参加し、級の取得を目指したい。また文章検定や漢字検定、N 検など教科との連携を要する検定についても合格を目指し、授業を通じた学びを深める機会を今後も続けていきたい。

保護者等との連携：1 学期末は全員、2・3 学期末は希望制あるいは指名制で三者面談を実施し、進路やクラスについて保護者等と情報を共有し、方向性を決めていく良い機会とした。

②ジェネラルコース

大学進学クラス・総合選択クラスのそれぞれの特色を活かし、幅広いニーズに応えられるよう取り組みを行った。進学希望生徒は大学見学会へ参加し、就職も視野に入れている生徒は業界別企業説明会に積極的に参加した。

大学進学クラスではペーパーでの英単語テスト、総合選択クラスではClassiでの漢字の小テストを実施した。総合選択クラスの英単語の学習は、英語の授業時間内に実施した。毎日の学習習慣の定着と基礎学力の向上に役立った。

大学進学クラスでは、英検と漢検の年1回ずつの受検を課しているが、今年度も2回目以降も自主的に受検する生徒が多く見られた。大学進学クラスからは1名がアドバンスコースにコース変更した。

春・夏・冬の長期休暇中に国語・数学・英語の講習を実施し、学習意欲の高い生徒が継続的に受講した。学期の振り返りや検定対策、模試対策を行った。

学年や探究での進路学習に加えて、進路部が主催する各種説明会への積極的な参加を促し、進路に関して実体験する機会を多く設けた。

三者面談や保護者会の機会に加えて、学費やオープンキャンパスに関する冊子を配付することで、情報の共有に努めた。

③ステップアップコース

ステップアップコースの最後の年となり、在校生3名全員の卒業を目指しましたが、1名が不調をきたし卒業が叶わなかった。しかし、クエストコースへ移行し継続して卒業を目指すことになり、引きつづきサポートしたい。

④クエストコース

生徒との日常的な接触が無く、また現状では教職員の割り当てが難しく隔週登校や、課外活動、入試イベント等、一定の教員に負担が偏っているのが状況である。

課題レポートや視聴報告書の添削指導や質問シートにより、オンライン上でより密にコミュニケーションをとることができた。また不登校生徒を主な対象としていることから、入学者の学力到達レベルの個人差が大きく、各生徒が自らの状況に応じてできる限り自らの力で学習を進められるような対策をとった。学校独自の授業動画の他、小学校から高校まで幅広くサポートできる「スタディサプリ」の全生徒導入で学び直

しや取りこぼしをカバーすると共に受験学習にも対応できるような体制をとった。他にも教科書付属の動画やNHK 高校講座等を活用し、生徒自らの力で高校卒業単位の習得ができるように誘導を行うと共に、選択制の「隔週登校オプション」について全生徒に履修を促し、直接指導できる機会において適切なサポートを行った。

また、面接指導（スクーリング）においては、Web スクーリングを最大限活用し、直接の対面指導では、一斉授業ではなくそれぞれの自主学習に対する個別サポートや実技・実習を主に計画した。

課題は進路指導である。これも生徒の自発的な選択を促しつつ、適切な情報提供などサポートを行えるような工夫を計画していく必要がある。高大連携の「デジタルフューチャー選択」にて育英館大学京都キャンパスでの情報系の専門教育を受講する等、進路選択に有益な体験の機会を提供していくことが重要である。

（２）生活指導の充実

- ・生徒会活動による校則を見直す議論をすすめ、自主・自立・自治の精神を培わせた。また、南部地区の生徒会交流会においては高いコミュニケーション能力を発揮できた。
- ・遅刻者が今年度は大幅に減少した。モラルやマナーといわれるレベルでの社会規範を遵守する意識の向上が必要である。
- ・1年生を対象にスマートフォンの使用、SNS の利用に関するモラルの向上のための講習会を実施し、リテラシーの習得につとめた。他学年に対しても同様の講習会を実施すべきである。SNS の不適切な使用による懲戒処分が無かったが、継続した取り組みを要する。また、全学年を対象に薬物乱用防止教室を実施した。
- ・学内奨学生が懲戒の対象となり、資格を停止等の処分を行った。奨学生としてアドミッションポリシーに合致した人物であるかどうか十分に確認を行い、入学前の意識確認と入学後も継続して指導する必要がある。
- ・建学の精神や社会状況を照らし合わせて、校則・懲戒の運用について見直しを図った。その結果、生徒・教職員ともに校則の意義について考える機会となった。今年度においても具体的な変更事項はなかったが、継続して検討する必要がある。
- ・女子更衣室については、常に教室への転換を念頭に置かざるを得ないため、顕著な改良を施すことができなかった。1号館3階の女子更衣室は男子教職員更衣室とパーテーションにより仕切られているだけの構造なので、場所の移動が望ましい。
- ・支援計画や合理的支援に関する委員会を実施した。委員会にかかわった教員には当事者としてかかわることができたが、それ以外の教職員にも同委員会の必要性に関する共通理解が必要である。
- ・合理的配慮について教職員研修を実施した。合理的配慮の法的義務化に向けた対応やいじめ問題や性の多様性等、直面している問題事例や対応方法について研鑽を積んでいく必要がある。
- ・校門での登校指導に取り組み、挨拶・言葉遣い・身だしなみに関して大きく改善された。
- ・長期休暇中の三者面談については適切に実施できた。次年度においても、平素より保護者との連絡を密にとり、情報共有に努める必要がある。
- ・生活指導上、懲戒処分の対象となった事案が30件（前年度31件）で昨年度とほぼ同数であった。生徒全員が安全で安心して勉学に励むことができる環境づくりが必要である。

・転退学者状況

全日制	在籍 (R7.4.1現在)	退学	転学	転籍	在籍 (R.8.3.31現在)
1年	218	2	8	1	207
2年	166	3	5	1	157
3年	209	0	0	0	209
計	593	5	13	2	573

通信制	在籍 (R7.4.1現在)	転出(減)		転入(増)		在籍 (R.8.3.31現在)
		退学	転学	転入	転籍	
	48	5	0	5	2	50
		5		7		

・全日制退学(転学含む)率3.0%(転籍2名除く)

(3) 進路指導について

<進学>

- ①「行ける進路」ではなく、「行きたい進路」の実現を目指し、生徒の希望や適性を踏まえた指導を概ね行うことができた。
- ②1年次から体系的なキャリア教育を意識し、自己実現の一つの手段として進路を考えられるよう、各学年で取組を進めることができた。
- ③保護者等に対する進路説明会を各学年で実施し、必要な情報発信を行うことができた。
- ④大学・短期大学・専門学校との連携を進め、連携校による進学講座等を企画・実施し、進学先の選択肢を広げることができた。
- ⑤定期的に進路希望調査を実施し、生徒の希望進路の把握と、それぞれに応じた進路指導を行うことができた。
- ⑥大学・専門学校の建学の精神・学風・校風等については、より一層の精査と研究を進め、生徒一人ひとりの希望・適性に応じた、きめ細かな指導につなげていきたいと考えている。
- ⑦進路ガイダンスを計画・実施し、進学への意識向上を図るとともに、志望校選択に向けた情報提供を行うことができた。

<就職>

①就職指導

学校斡旋希望者で就職する者は男子7名、また縁故就職する者は男子9名女子1名という結果になった。学校斡旋で就職する生徒は5月～7月に全9回(毎週水曜日)の就職対策講座を行った。求人票の見方、一般常識、クレペリン検査等を実施した。

②会社訪問

学校斡旋で内定をいただいた後、全7社に訪問した。

③業界別説明会

3月に本校主催による生徒対象業界別説明会を実施した。参加企業の職種は製造・事務・建設・美容・販売・飲食・福祉・ドライバー・公務員(自衛隊・消防・警察)、11の企業等に協力いただいた。各ブース形式(約30分2回転)にて実施し、30名の生徒が参加した。

<支援金制度>

①JASSO

生徒対象の説明会を実施した。内容が複雑な面もあり保護者等からの問い合わせが多かった。また、保護者等からの電話や来校での問い合わせについては、個別に対応したことで手続きを無事に完了することができた。内訳は次の通りである。

奨学生生徒対象者	132名
給付及び貸与申込者	78名
貸与申込者	32名
給付申込者	22名

(4) 教務一般について

I C T環境が整い、授業と学校行事での活用が進められている。

年度途中で担当教諭が交代となる教科もあったが、新たに非常勤講師の先生に引き継いでいただき年度を無事終えることが出来た。しかし、非常勤ということ学事システムを使用した成績処理ではミスがあり、来年度からは全教科において2人で読み合わせを行い、チェックすることとなった。

(5) 生徒募集活動について

(単位：人)

地域	R7年度生 目標	入学者	目標比	R8年度生 目標	入学者	目標比	前年比
京都府下	155	152	-3	155	134	-21	-18
京都市内	30	16	-14	30	10	-20	-6
奈良県	40	37	-3	40	48	+8	+11
大阪府	20	11	-9	20	12	-8	+1
その他	-	2	+2	-	1	+1	-1
合計	245	218	-27	245	205	-40	-13

※奈良県からの入学者数は昨年度より11名多い、48名の入学者を獲得することができた。しかし、京都府下からの入学者は昨年度よりも18名少ない、134名であった。

推薦入試出願者

(単位：人)

A~Eの内訳 推薦・特待	令和7年度生						令和8年度生					
	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	
アドバンス推薦	15	4	1	8	-	-	15	4	5	6	-	-
ジェネラル推薦	18						25					
検定推薦	31	6	7	18	-	-	12	2	5	5	-	-
クラブ推薦	97	62	12	12	1	10	92	50	24	15	3	-
アドバンス併願特待	3	0	1	2	-	-	4	0	2	2	-	-

※ 奨学生の種別

令和7年度生 A：入学金+授業料全額 B：入学金+授業料の80%
C：入学金+授業料の50% D：入学金+授業料の30%
E：入学金（課題作文）

令和8年度生 A：入学金+授業料全額+施設運営費 B：入学金+授業料全額
C：入学金 D：課題作文（奨学金無）

※ 推薦制度（入試制度）を活用して、志願者及び入学者の獲得を目指したが、昨年を上回ることはできなかった。特に、検定推薦においては、昨年度より19名減少した。

推薦・専願・併願入試出願者

(単位：人)

年 度	総出願	推薦・専願 (合格)	併願 (合格)
令和4年度	850	192 (186)	658 (579)
令和5年度	900	223 (220)	677 (616)
令和6年度	832	172 (165)	660 (595)
令和7年度	793	203 (196)	590 (531)
令和8年度	784	194 (188)	590 (519)

※併願の入学者は、昨年度と同数の17名であった。

※17名の内、アドバンスの併願特待が4名で、特待Bが2名、特待Cが2名であった。また、その内訳は、京都府下3名、奈良市内1名だった。

地元からの出願者

(単位：人)

地 域	年 度	中学3年生数	出願者数	入学者数
精華町	令和6年度	325	48	12
	令和7年度	339	61	13
	令和8年度	314	66	15
京田辺市	令和6年度	646	107	18
	令和7年度	627	111	26
	令和8年度	643	108	25
木津川市	令和6年度	892	235	44
	令和7年度	759	198	50
	令和8年度	810	194	46
城陽市	令和6年度	606	91	14
	令和7年度	595	96	19
	令和8年度	675	84	11
宇治市	令和6年度	1,525	74	13
	令和7年度	1,475	67	16
	令和8年度	1,425	62	19
伏見区	令和6年度	1,944	23	11
	令和7年度	1,888	17	11
	令和8年度	1,799	20	9

※精華町の出願者数は昨年度と比較すると5名増加し、入学者数は2名増加し、15名であった。宇治市については出願者数が減少したが、入学者数は3名増加し、19名であった。全体としては、昨年度と比較すると、中学3年生数は17名減少し5666名、出願者数は16名減少し534名、入学者数は、10名減少し、125名であった。

(6) 企画・広報

チラシ等のイベント情報や、学校案内・募集要項については、年間スケジュールの予定通り行うことが出来た。SNS等の発信については昨年度と変わらない頻度で一定数行うことが出来た。

次年度においては、企画・広報担当を明確に設定し、積極的な広報活動を通して、本校の「魅力」と明るく活発な雰囲気や生徒が主体的に行動する姿に焦点を当て、引き続き認知度を向上させるための活動を継続していきたい。

(7) 研修部について

- ・教職員を対象に教育に係る問題やトレンド、本校に留まらず関心を持つべきトピックを選定し職員会議の際に時間を頂き、提供するようにしている
- ・在校生を対象にした人権学習としては文化パーク城陽で映画「心の傷を癒すということ」の鑑賞、本校体育館にて「真っ赤なお鼻」の放課後を鑑賞した。それぞれメンタルケアや国籍に係る問題、ヤングケアラーなど昨今の課題に則した内容で作品に触れることができた。

(8) 事務一般・校舎など整備事業について

- ・1号館3階及び2号館1階のGHPエアコンの更新工事を行った。
- ・西キャンパス浄化槽からの悪臭の改善修理と一部機器交換を行った。
- ・1号館屋上全面と2号館の接続部にかけて防水修理を行った。
- ・授業料等納入状況については、保護者等の事情により遅れる場合もあるが、こまめな連絡を行い年度末までに全員完納できた。
- ・就学支援金、あんしん修学支援金、奨学のための給付金、学費軽減、学園奨学金などの手続きに加え授業料無償化に向けた移行措置もあり、業務が繁雑になるところであったが、担当者を中心に丁寧に処理し滞りなく授業料へ反映できている
- ・官公庁等への書類提出は各部署と連携し慎重に処理している。
- ・車輻自損事故等の際には事故報告を受け速やかに対応した。事故を未然に防ぎ安全管理に努める必要がある。
- ・車輻使用前アルコールチェックの実施と安全運転に努めた。

2. 京都福祉専門学校

1) 令和7年度の事業の概要

(1) 概要

教育・社会福祉専門課程 介護福祉科／職業実践専門課程

昼間2年制 総定員80名（男女）

建学の精神に基づいた教育の具現化を図り、選ばれる学校になれるよう教育に力を入れ、業務を遂行した。

令和7年度は、1年生27名・2年生29名の計56名で始まり、最終的に1年生退学0名・留年0名で27名が進級。2年生退学3名で26名が卒業した。

① 職業実践専門課程への対応

文部科学省より職業実践専門課程の認定を受け10年が経過した。

令和7年度においては、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会を2回実施した。

◎1回目は令和7年9月26日に実施

・議案1)「地域連携強化について」

～介護福祉士養成教育『今後の展望』について～

地域共生社会の実現に向け、外部施設からの講師を招き地域包括ケアシステムの観点から地域のニーズなどの生の声を聞かせていただくことにより即戦力として働ける環境の場を提供した。

また、宇治市におけるボランティアや高齢者サロンの現場で、高齢者・障害者の生き甲斐に繋がる問題提起に対してグループワークを行い探究していくのも良いのではというご意見もいただいた。

◎2回目は令和8年3月19日に実施

・議案1)「社会が求める介護福祉士像について」

施設（介護現場）の意見では、介護人材が不足しているのは現状ではあるが、だからといって誰でもいいわけではない。また、資格をもっているということよりも基礎が出来ていることが重要であり即戦力が求められる。

チームリーダー制を実施している施設が多い。養成校卒業生は介護過程の展開、個別援助計画の立案、サポート力、マネジメント力が求められる。

② 「介護福祉士」国家資格制度について

経過措置の概要としては、平成 29 年から令和 8 年度までに介護福祉士養成施設を卒業した者は介護福祉士国家試験に合格しなくても（不合格又は受験しなかった）試験センターに登録申請をすることにより 5 年間、介護福祉士の登録を受けることができる特例措置である。

5 年間は介護福祉士国家試験に合格した者と同様、介護福祉士であるが、①5 年の間に合格すること、又は②養成施設卒業年度の翌年度の 4 月 1 日から起算して、5 年間継続して介護等の業務に従事することが条件である。

令和 8 年 1 月 25 日の国家試験から「パート合格制」が始まり、3 つのパート（ABC）に教科が区分され、それぞれのパート毎に合否が決まる。一発合格すれば問題ないが、落としたパートは 2 年以内に合格できないと振り出しにもどり 3 年目には最初から全体のパートを受験することになる。

③ 国家試験対策

第 30 回介護福祉士国家試験より受験が必須となった。令和 7 年度も国家試験全員合格を目指し、年度当初全員に各科目の目標設定を促し、時間割に週 2 コマの試験対策講座を取り入れ過去問題を中心に試験対策を行った。学力向上が図れていない生徒は個別指導に当たった。

また、中央法規出版主催の全国共通模擬試験（年 2 回）、介護福祉士養成施設協会主催の学力評価試験（11 月 26 日）にも臨んだ。試験対策として早い段階で実施した。受験に対しての意識は学生にとってまちまちであった。

結果は、全員受験、全員合格を目指したが残念ながら 1 名が不合格となり合格率は 96.1%となった。しかし、養成校で学んだ知識・技術・人間教育はこれからの社会で必ず生きてくるものであり、仕事の遣り甲斐として必ず役に立つことと考える。

< 介護福祉士養成施設協会 学力評価試験結果 > (125 点満点)

	本校	養成校
受験者数 (人)	26	4,747
平均点 (点)	85.8	73.3

<第38回介護福祉士国家試験結果>

(125点満点)

	本校	養成校	全国
受験者数(人)	26	7,824	78,469
合格者数(人)	25	4,603	54,987
平均点(点)	87.9	—	—
合格ライン(点)	64		
合格率(%)	96.1	58.8	70.1

介護福祉士合格率



④ 医療的ケア

医療的ケアは介護福祉士養成課程の学科の中で、4領域の一つとして在宅療養や障害者施設、高齢者施設など地域で安心して暮らすために重要な支援であり、平成23年6月の法改正により介護福祉士の業務に喀痰吸引・経管栄養が追加され平成26年度入学生より導入した。

今年で基礎研修修了は11年目となった。

⑤ 離職者等再就職訓練事業（長期高度人材育成コース）の状況

平成21年度より始まった求職申込者に対する2年間の求職者訓練事業は、令和7年度生も実施され、介護福祉士コースは2コース設定で1コース4名枠と6名枠の希望制であった。12月5日に募集公示（HP）、12月17日に事前説明会（京都府京都高等技術専門校）、1月5日に参加表明及び提案書の締め切り（プロポーザル書類提出）、1月22日に結果公表（HP）、1月28日に募集チラシの発送（各ハローワークへ）、2月2日～3月2日に募集期間（1ヶ月）、3月11日に試験を実施（小論文・面接）予定であったが、結果的に出願はなかった。

このような状況からも分かるように年々社会人の養成校希望者が減少してきている。ほとんどが実務者ルートを選択するようになり、介護福祉士国家試験の養成校受験者率は8.4%、福祉系高等学校ルートは3.3%、実務者ルート及び施設の介護職員等による受験者率は88.2%となっている。

今後の対応としてより詳細な分析を行い、募集に対する見直しが求められるものと考えている。

⑥ 京都府修学資金貸付制度

平成 21 年度より始まった京都府介護福祉士修学資金貸付制度。京都府社会福祉協議会が実施しており 2 年間で最大 168 万円の貸付を受けられる。国家試験対策費として 8 万円を含む。卒業後、申請都道府県の福祉施設で介護福祉士として 5 年以上基本継続勤務すれば返還が免除される。令和 7 年度も継続して実施された。 単位：人

() 留学生	京都	滋賀	埼玉	福井
1 年	22 (9)	4	1	0
2 年	17 (3)	4	0	1

(2) 学校行事

月	行 事 (前期)	月	行 事 (後期)
4	学園全体会議・ガイダンス (1・2 年生) 入学式・健康診断・避難訓練 前期授業開始 春のレクリエーション 1・2 年交流会 (ボウリング・フォトコンテスト)	7	前期授業終了 前期試験・追再試・成績発表 個別目標指導・中央法規出版模試① 施設実習 (区分Ⅰ-②) 直オリ
5	前期在籍調査・学校基本調査 就職ガイダンス (1 年生のみ開催) 実習交流会 (1・2 年合同)	8	模擬試験・区分Ⅰ-②実習報告会 視覚障害ガイドヘルパー講習 施設実習 (区分Ⅱ-②) 直オリ
6	施設実習 (区分Ⅰ-①) 施設見学 (京都ライトハウス) 実習指導者懇談会 (ZOOM 開催)	9	施設実習 (区分Ⅱ-②) 実習報告会 (2 年) 統一試験対策講座開講 国家試験申し込み・ 職業実践専門課程委員会① 京専各協会体育大会 (バレーボール・卓球) 後期授業開始 (2 年)

10	後期在籍調査・福祉住環境コーディネーター2級対策講座（希望者 Web 学内受験） 中央法規出版模試② 整体体験	1	後期試験（1年生）・成績発表 第37回介護福祉士国家試験 卒業判定会議 介護福祉士登録説明会
11	WELカムFARE[感謝祭（花、球根）] 校外学習（京の文化） 学園創立記念日（10日） 介護の日（市老協イベント） 救命講習（宇治市消防本部） 介養協学力評価試験（卒業時共通試験）	2	施設実習（区分Ⅱ-①）
12	区分Ⅱ-①オリエンテーション 実習施設配置発表・事例研究発表会 福祉用具見学実習・人権学習 後期試験（2年生）・年末大掃除	3	実習報告会（1年）・進級判定会議 次年度履修科目説明会 介護福祉士会入会説明会 卒業証書授与式 令和7年度国家試験結果発表 職業実践専門課程委員会② 介護福祉士登録

(3) 進路状況（卒業生：26人）

・進路状況全般

単位：人

	福祉系就職	進学	その他就職	合計
希望者数	25	1	0	26
決定者数	25	1	0	26
進路決定率（%）	100.0	100.0		100.0

・進路状況内訳

単位：人

進路先	学生数
高齢者福祉施設	25
障害者福祉施設	0
進学（大学編入・専門学校）	1
一般企業（その他業種）	0
医療機関・療護型医療施設	0
公務員・社会福祉協議会等	0
合計	26

(4) 令和8年度生 募集状況

・入学試験結果

単位：人

入試区分	出願者数	合格者数	入学者数		
			合計	男	女
内部進学	2	2	2	1	1
A O	28	28	26	14	12
求職者訓練生	0	0	0	0	0
推薦	指定校推薦	0	0	0	0
	自己推薦	6	6	2	4
一般	0	0	0	0	0
合計	36	36	34	17	17

・地域別受験者 内数（留学生）

都道府県名	京都	滋賀	大阪	奈良	福井	その他	合計
出願者数(人)	24 (7)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	7 (7)	36 (15)
出願者比率(%)	66.7	5.5	2.8	2.8	2.8	19.4	100.0

※その他：中国（4）、埼玉（2）、岡山（1）

留学生出身国：中国（7）、ベトナム（5）、カンボジア（2）、シンガポール（1）

2) 令和7年度の主な事業の目標、進捗状況

(1) 関連資格取得

	関連資格	受験・受講	結果
①	普通救命講習	26人受講	26人認定
②	レクリエーション介護士2級	26人受講	26人認定
③	レクリエーション・インストラクター	5人申請	5人認定
④	全国手話検定5級	21人受講	21人認定

⑤	福祉住環境コーディネーター2級	1人申請	1人認定
⑥	視覚障害者同行援護技術	4人受験	4人合格

(2) 施設設備の整備

- ・PC室パソコン5台 ・エアコン更新工事(3F講堂)
- ・外壁コーキング工事(図書室北側)・高圧受電設備更新工事

(3) 生徒募集

- ・オープンキャンパス(OC)の充実

感染症対策として、対面式のOCは一日5組限定を引き続き実施した。

学生スタッフも参加者状況を見ながら少人数の声掛けを行った。

対前年度予算と比較して、学校内ガイダンスや会場ガイダンスは極力減らし、昨年同様Webを中心にリターゲティング広告やジオタグに力を入れた。

新規の参加者数においては若干の減少傾向にあり、出願率でカバーしている状況である。参加者数と出願率が双方に上がると定員充足が可能である。出願率は昨年度とほぼ同率の55.6%となった。定員充足には届かなかったが新規母数を増やす対策が必要と考える。

今後も粘り強くホームページやSNS、期間限定のリターゲティング広告、リスティング広告等Web主流の広報で本校の存在をアピールしていく。

- ・高等学校等訪問

Webを中心とした広報活動を行ったため行わなかった。

- ・入試制度の充実

AO入試での受験生を増加するべく、HPやDM・SNSを利用してPRした。OC参加者にも3回の入学前教育の参加を紹介し、オープンキャンパス参加証(スタンプ制)の導入を継続して実施した。

OC参加者に対する手ごたえは十分にあった。

また、京都府長期高度人材育成制度(訓練生)では5名枠の内、結果的に4名の受験があったが1名を不合格とした。

今年度も資料請求者数の増減は横ばいであるが、引き続きLINE(SNS)を有効活用し参加希望者との直接のやり取りをスムーズに行う。

定員充足率は67.5%となった。次年度においては100%を目指し募集活動を行いたい。

今年度の分析を行いOC参加者に少しでも魅力ある学校であることを発信し、さらに選ばれる学校を目指す。

・地域との連携

近隣の数町内の住民を対象にサロンは社会におけるコロナ感染状況を見ながらの実施で開講した。「宇治けんこう楽学広場」、月1回（第2土曜）の健康体操やレクリエーションに毎回20～30名が参加され、学生スタッフと共に楽しく過ごすことにより健康で生き甲斐を感じていただいた。

また、宇治地域福祉研究所による「学校 de カフェ」では、コロナ感染対策を万全に行い5月から月に1回テーマを決めて講師を招き開催し実施した。

(4) 教育内容の充実及び向上

・学校自己点検の実施

教育内容の向上を目指して、学校自己点検を今年度も実施した。

・授業評価の実施

理解しやすい授業を目指して、学生による授業評価を前期・後期とも実施した。

以 上

3. 京都動物専門学校

1) 令和7年度の事業の概要

(1) 概要

グルーミング学科／愛玩動物看護学科

建学の精神に基づいた教育の具現化を図る学校創りをするため、SKILL・LOVE・BUSINESSのスローガンのもと、アドミッションポリシー（入学受入方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）、ディプロマポリシー（進級・卒業認定、専門士授与に関する方針）を着実に進め、選ばれる学校となれるよう業務を遂行した。

① 職業実践専門課程への対応

職業実践専門課程の認定を受け12年が経過した。

令和7年度においては、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会を2回実施した。

1回目は令和7年9月17日に実施。

- 議案 1) 「令和6年度 自己点検・評価報告書」について
- 2) 「産学連携の在り方・業界等の動向など」について
- 3) 「各委員の任期満了に伴う次期委員の継続伺い」について

2回目は令和8年3月18日に実施。

- 議案 1) 「令和7年度 事業報告（教務・進路・入試・事務）」について
- 2) 「令和8年度 事業計画（案）」について

教務・進路・入試・事務からの報告を行い、委員の本校状況の理解に努めた。また、委員から特に指摘されたことは、退学者の多さであった。全体で退学率が10%を超える結果、特に愛玩動物看護学科1年生が多く、学生対応の迅速化と物理的なシステムの導入の提案があった。その他、厳しい意見・指摘があったが、それぞれの考え方や議論を交わせる良い委員会であった。

② 令和8年度からの改編

令和8年度より学則を変更。主な変更点は、両学科の教育課程を時間数から単位数に変更及び科目名の変更と追加を行った。令和8年度生からの施行であるため、新・旧の両学則に対応していく必要がある。

また、退学率を抑える対策・対応を考える。

今年度も高等教育の修学支援制度の機関要件に係る対応を行う。

③ 愛玩動物看護学科の充実

- ・1学年に28名の入学。退学者9名、19名の進級であった。
- ・2学年に30名の進級。退学者1名、29名の進級であった。
- ・3学年に26名の進級。退学者0名、26名の卒業であった。
- ・愛玩動物看護師国家試験は、26名受験し全員合格であった。
- ・動物看護系の伝統でもある、ボランティア活動（グッズ制作～販売～愛護センターに寄贈）を実施した。
- ・NAVAペット管理栄養士資格取得。
- ・Bio Art犬・猫繁殖士資格取得の強化対策。

④グルーミング学科の充実

- 1 学年に 39 名の入学。復学者(学科変更)1 名。退学者 4 名、36 名の進級であった。
- 2 学年に 34 名が進級。退学者 2 名、32 名の卒業であった。
- 自校認定トリマーライセンスを導入して 11 度目のライセンス交付であった。このライセンスは、全教科の成績・出席状況、すなわちトリミング技術だけでなく、専門知識やビジネスマナーなどをしっかり身につけた学生の成長を評価するものであり、学生の認識と意識の強弱によって大きく評価に影響する。しかし、NAVVA トリマーライセンスとダブルスタンダードであるため、廃止も検討したい。
- NAVVA トリマーライセンスは導入して 9 年目となった。学生は目標を明確に持ち日々努力できた。
- 各級について、まだまだ課題は多く、よりレベルアップを目指す。
- P S I A (ブロンズ) の申請 (1 級合格 25 名→P S I A 申請 19 名)
申請率向上のためには、ペットスタイリスト国際協会の知名度向上と資格取得の体系整備も必要不可欠である。
- 現在、トリマーの資格は統一の方向に動いているため、その動向にも注視し対応していく。
- NAVVA 全国トリミングコンテストに出場。入賞はならなかったが、出場した学生は貴重な経験ができたと思うが、結果を伴う喜びと達成感を経験させてあげなければならない。
- 通常の実習において、良質のモデル犬の確保が必要である。

(2) 学校行事

月	行事	月	行事
4	講師会 入学式 健康診断 オリエンテーション 避難訓練 春のレクリエーション ZPK ペット業界就職説明会(グルーミング2年)	10	京専各体育大会 動物感謝デー in KYOTO (動物看護3年)
		11	第19回ぐーDOG祭 校外学習 動物愛護社会化検定基礎級試験(グルーミング1年) 愛玩動物飼養管理士1・2級試験 ビジネス実務マナー検定 NAVA トリマーライセンス2級試験
		12	校内トリミング競技会 NAVA トリマーライセンス3級試験
5	校外学習	1	授業参観(1年) 校内合同企業説明会
6	ビジネス実務マナー検定3級 動物看護総合実習(動物看護3年)	2	NAVA トリマーライセンス1級試験 全国トリミングコンテスト NAVA ドッグトレーナーライセンス2級試験 NAVA ペット栄養士・ペット管理栄養士試験 ZCC キャットマイスター・ベーシック試験 動物理学療法士2級試験 販売士検定 簿記検定 愛玩動物看護師国家試験 後期試験
7	インターンシップ(グルーミング2年) 授業参観(2年) アニコム試験		
8	前期試験 家庭動物管理士3級試験 インターンシップ(グルーミング2年)		
9	動物看護総合実習(動物看護2年)	3	京都動物フォーラム2026(動物看護2年) 一日見学(1年) 卒業式

(3) 進路状況(卒業生:58人)

	動物系就職	進学	その他(一般)	合計
希望者数(人)	56(グ31看25)	0	2(グ1看1)	58
決定者数(人)	52(グ29看23)	0	3(グ3看0)	55 (未定グ3)

(4) 令和8年度生 募集状況(入学者数) (人)

入試区分	AOエン トリー	出願許可	出 願	合 格	入 学				
					男	女			
(内部進学)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(0)	(10)		
A 0	112	84	81	81	79	3	76		
自己推薦	-----	-----	5	3	3	0	3		
一 般	-----	-----	3	0	0	0	0		
合 計	112	84	89	84	82	3	79		
						グルーミング学科		1	38
						愛玩動物看護学科		2	41

※内部進学はAOを含む

地域別入学者(出身高等学校・大学短大所在地別) ※通信制高校は本校所在地とする。

	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	その他	合計
人数 (人)	43	18	12	1	8	82
割合 (%)	52.4	22.0	14.6	1.2	9.8	100.0

2) 令和7年度の主な事業の目標、進捗状況

(1) 教育内容

① 教育内容の充実

- ・ 両学科ともにインターンシップ・外部実習先・研修先の確保はできた。
- ・ 2年生の研修旅行は、海外（韓国）で募集を募ったが希望者が少なかったため、実施しなかった。
- ・ 「ぐーDOG祭」は、今年度も通常通りの内容で実施した。
- ・ 校外学習とレクリエーションについても、年2回実施した。
(令和8年度から校外学習・レクリエーションは年1回のみとする)
- ・ 校内トリミング競技会を本年度も1号館3階で実施し、例年どおり張り詰めた空気の中、真剣な面持ちで参加者は腕を競った。学生のモチベーションを大きく上げるイベントであり、見学した1年生にとっても先輩の姿に刺激を受け、明確な目標をもつ機会となった。
- ・ 校内トリミング競技会の入賞者2名が、全国トリミングコンテストに出場した。Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）での開催となり、学生のモチベーションは上がっていた。今年も入賞することができなかったが、今後は入賞という結果を残したい。
- ・ NAVAのトリマーライセンスを導入し9年目となった。今年度も外部の審査員による実施ができた。(3級は内部審査)
合格率は良かったが、より全体のレベルの向上は必要である。
- ・ NAVA（ドッグトレーナー2級、ペット栄養士、ペット管理栄養士）、動物理学療法士、キャットマイスターなど多様なライセンス試験を実施。
- ・ 愛玩動物看護学科教育課程の動物看護総合実習を実施。今後も、実習施設の確保を継続して行う。
- ・ 愛玩動物看護学科が「動物感謝デー in KYOTO」「京都動物フォーラム2026」に、ボランティア活動（グッズ制作～販売～愛護センターに寄贈）としてブース参加。
- ・ (一社)京都府専修学校各種学校協会の体育大会に参加。
- ・ 薬物乱用防止ポスターの掲示及び京都府薬物乱用防止指導員を任命。

② 教育支援の強化

- ・ 修学支援制度（高等教育無償化）利用者62名。(令和6年度44名)
- ・ 2、3年生を対象に行っている在校生特待制度(10万円支給)に7名が該当した。
- ・ 担任制の充実のため学生による、担任評価アンケート・授業力を高めるための授業評価アンケートを年2回実施した。(アンケート方法を紙からウェブに変更)
- ・ 学生と担任の面談回数に重点を置き、個別面談を定期的の実施。

③ 進路指導の充実 ※R8年3月末在籍者（休学者は除く）を対象とする

- ・ インターンシップ グルーミング学科2年：32名
- ・ 一日見学 両学科1年生：55名
- ・ 就職、進学決定者 55名（希望者 58名）
- ・ 個別面談で、履歴書、面接指導を実施。
- ・ 校内で合同企業説明会を実施。
- ・ 自主的なインターンシップ及び一日見学等を希望する学生に対しての対応。

④ 高専連携

本校と京都廣学館高等学校の運営は同一学校法人であるので、内部進学が強みを生かす連携を実施。

⑤ 資格取得状況

- ・ トリマーライセンス
 - S級・・・10名 A級・・・6名
 - B級・・・10名 C級・・・6名 無級・・・0名
- ・ (一社)日本動物専門学校協会 NAVAトリマーライセンス
 - 1級(2年生) 25名受験 25名合格
 - 2級(2年生) 32名受験 26名合格
 - 3級(1年生) 37名受験 37名合格
- ・ (一社)ペットスタイリスト国際協会 PSIAブロンズ
 - NAVA1級合格者25名中 19名認定
- ・ 愛玩動物看護師国家試験
 - 26名受験 26名合格
- ・ 愛玩動物飼養管理士
 - 1級 6名受験 5名合格
 - 2級 56名受験 46名合格
- ・ 家庭動物管理士
 - 3級 39名受験 35名合格
- ・ 動物愛護社会化検定
 - 基礎 37名受験 33名合格
- ・ 販売士検定
 - 3級 36名受験 9名合格
- ・ ビジネス実務マナー検定
 - 3級 32名受験 21名合格
 - 2級 2名受験 2名合格
- ・ 日商簿記検定
 - 3級 12名受験 4名合格
- ・ Microsoft Office Specialist Word2019
 - 37名受験 28名合格
- ・ Microsoft Office Specialist Excel2019
 - 60名受験 57名合格
- ・ 損害保険募集人 一般試験
 - 62名受験 36名合格

- ・ NAVAドッグトレーナー2級
22名受験 17名合格
- ・ NAVAペット栄養士
36名受験 32名合格
- ・ NAVAペット管理栄養士
37名受験 24名合格
- ・ ZCCキャットマイスター・ベーシック
37名受験 36名合格
- ・ 動物理学療法士2級
45名受験 44名合格
- ・ Bio Art 繁殖士(犬)
6名受験 4名合格
- ・ Bio Art 繁殖士(猫)
1名受験 1名合格
- ※ 繁殖士資格 令和6年度より実施したが、内容的に受講する学年を見直すこととする。
Bio Artと協議の結果、受講については3年間有効としていただいた。

(2) 施設、設備の整備

- ① パソコン6台 購入
- ② 超音波画像診断装置 購入
- ③ 消防点検(8/7)、貯水槽点検(9/11) 実施

(3) 生徒募集

① 募集活動

入学者目標を77名と定め、下記のような募集活動を行った。

- ・「高等学校との接触強化」
高校ガイダンス等は過去の動員実績や志願者推移を分析し、参加・不参加の基準を明確化した。
また、教員向け資料を作成し、信頼関係およびコミュニケーション機会の質的向上を図った。
- ・「学校説明・オープンキャンパス内容の充実」
学校コンセプトを伝える「オープニング映像」の再撮影を実施。
分野の将来性や、学費・教材費について詳しく説明する「保護者説明会」を実施。
在校生の声を伝える「インタビュー動画」を作成。
エントリー率を上げるため、「AOエントリーシート書き方講座」を実施。
- ・「その他の取り組み」
口コミが表示される進学サイト「みんなの専門学校」への新規掲載を実施。
他校イベントページを閲覧した人に本校の広告を出現させる、ターゲティング広告を実施。
友達登録していない人にもメッセージを送れる、公式LINE新機能を追加した。
- ・オープンキャンパス、学校見学などへの動員目標(200名)並びに動員からの出願率目標(40.0%)を設定し、DM、進学情報誌、ホームページ等での広報活動の展開を図った。結果、動員数239名、動員からの出願率37.7%(AOエントリーを含む

場合、44.7%)となった。動員数は目標値を上回ることができた。出願率に関しては、少し課題が残った。

- ・リスティング広告の運用、WEBサイト(PC・スマートフォン)、SNS(ツイッター・FB・LINE・インスタグラム・YouTube)などパブリシティー活動、PR戦略を展開した。特にネット広告に重点を置いた。
- ・SNS(LINE@)からのオープンキャンパス参加申込みを実施。
- ・缶バッジプレゼント等の企画を継続実施。

② 入試制度改革

A0アドバンス入試の導入と指定校推薦入試の廃止を実施し、4年目であった。

- ・A0アドバンス入試は例年同様、エントリー時の必要書類として個別相談後に配布する「A0エントリー資格証」を必須とした。更に、選抜試験として筆記試験及び面接を実施。ブランディング化も推し進め、本校の掲げるアドミッションポリシーにより合致した生徒募集を実施した。
- ・エントリー数は112名。エントリー率は66.0%だった。エントリー数・率とも、大きく伸びた。
- ・募集定員厳格化、ブランディング化などを考慮し指定校推薦入試を廃止しているが、辞退者数を想定してのA0アドバンス入試は非常に難しく、愛玩動物看護学科においては辞退者が少なく、入学者が定員の8名オーバーという結果となった。
- ・今年度もグルーミング学科の根幹「グルーミング実習」をしっかりと広報することにより、トリマー資格を目指す学校としての認知度を高めた。入学後のミスマッチを防ぐことに効果が出たと考えている。また、愛玩動物看護学科は国家資格・合格率を詳しく説明した。特に合格率は具体的な数値で伝えることが出来るため、効果的に広報できた。
- ・令和8年度生出願状況(高等学校・大学短大所在地)を昨年度と比較して、京都府からは変わらず(52.0%→52.4%)、滋賀県からは増加(15.0%→22.0%)、奈良県からは大きく減少(9.0%→1.2%)、大阪府からは増加(9.0%→14.6%)、その他地域からは減少(15.0%→9.8%)となった。

<京都府から出願割合推移>※通信制高等学校においては本校の所在地とする。
H28年度生 27名(61.4%) /H29年度生 34名(57.6%) /H30年度生 33名(58.9%)
R1年度生 27名(55.1%) /R2年度生 49名(59.0%) /R3年度生 54名(50.5%)
R4年度生 50名(61.0%) /R5年度生 43名(55.8%) /R6年度生 38名(51.4%)
R7年度生 35名(52.0%) /R8年度生 43名(52.4%)

<滋賀県からの出願割合推移>

H28年度生 9名(20.4%) /H29年度 11名(18.6%) /H30年度生 10名(17.9%)
R1年度生 8名(16.4%) /R2年度生 16名(19.3%) /R3年度生 30名(28.0%)
R4年度生 12名(14.6%) /R5年度生 15名(19.5%) /R6年度生 13名(17.6%)
R7年度生 10名(15.0%) /R8年度生 18名(22.0%)

今後も募集エリアを再考した広報活動を行う必要がある。

(4) 自己点検評価の実施

学校関係者評価委員会を9月と3月に開催し、令和7年度の総括を兼ねた報告書を作成し報告した。

南京都学園財務の状況

1. 令和7年度の財務の状況

(1) 貸借対照表

令和8年3月31日

単位：千円

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	5,856,027	5,996,704	△ 140,677
有形固定資産	5,614,093	5,912,399	△ 298,306
土地	4,718,679	4,946,887	△ 228,208
建物	767,531	824,332	△ 56,801
構築物	20,465	24,755	△ 4,290
教育研究用機器備品	51,169	60,534	△ 9,365
管理用機器備品	11,220	10,708	512
図書	44,371	44,230	141
車両	658	953	△ 295
特定資産	232,870	79,000	153,870
退職給与引当特定資産	232,870	79,000	153,870
その他の固定資産	9,064	5,305	3,759
電話加入権	2,409	2,409	0
出資金	10	10	0
水道施設利用権	313	313	0
保証金	350	350	0
ソフトウェア	0	0	0
有価証券	4,500	0	4,500
長期前払金	1,482	2,223	△ 741
流動資産	624,430	557,712	66,718
現金預金	428,337	367,261	61,076
未収入金	114,914	97,398	17,516
前払金	37,833	35,923	1,910
立替金	42,498	56,220	△ 13,722
仮払金	848	910	△ 62
資産の部合計	6,480,457	6,554,416	△ 73,959
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	625,410	679,572	△ 54,162
長期借入金	491,711	515,699	△ 23,988
退職給与引当金	133,699	163,873	△ 30,174
流動負債	484,340	418,121	66,219
短期借入金	95,524	89,860	5,664
未払金	137,800	96,276	41,524
前受金	127,643	110,162	17,481
預り金	123,373	121,668	1,705
仮受金	0	155	△ 155
負債の部合計	1,109,750	1,097,693	12,057
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	9,725,479	9,695,788	29,691
第1号基本金	9,647,479	9,617,788	29,691
第4号基本金	78,000	78,000	0
繰越収支差額	△ 4,354,772	△ 4,239,065	△ 115,707
翌年度繰越収支差額	△ 4,354,772	△ 4,239,065	△ 115,707
純資産の部合計	5,370,707	5,456,723	△ 86,016
負債及び純資産の部合計	6,480,457	6,554,416	△ 73,959

(2) 事業活動収支計算書

令和7年4月 1日から

令和8年3月31日まで

1.教育活動収支		単位:千円		
	予 算	決 算	差 異	
学 生 生 徒 等 納 付 金	690,701	703,197	△ 12,496	
手 数 料	19,689	20,640	△ 951	
寄 付 金	4,880	5,425	△ 545	
補 助 金	352,145	360,888	△ 8,743	
そ の 他 の 収 入	202,157	128,369	73,788	
教 育 活 動 収 入 合 計	1,269,572	1,218,519	51,053	
人 件 費	757,280	748,507	8,773	
教 育 研 究 経 費	475,963	460,320	15,643	
管 理 経 費	92,901	87,606	5,295	
教 育 活 動 支 出 合 計	1,326,144	1,296,433	29,711	
教 育 活 動 収 支 差 額	△ 56,572	△ 77,914	21,342	
2.教育活動外収支				
受取利息・配当金	233	566	△ 333	
借入金等利息	11,179	10,227	952	
教 育 活 動 外 収 支 差 額	△ 10,946	△ 9,661	△ 1,285	
3.経常収支差額(1+2)				
経 常 収 支 差 額	△ 67,518	△ 87,575	20,057	
4.特別収支差額				
特別収入	0	1,848	△ 1,848	
特別支出	252,349	288	252,061	
特 別 収 支 差 額	△ 252,349	1,560	△ 253,909	
5.事業活動収支(3+4)				
基本金組入前当年度収支差額	△ 319,867	△ 86,015	△ 233,852	
基 本 金 組 入 額 合 計	△ 39,620	△ 29,692	△ 9,928	
当 年 度 収 支 差 額	△ 359,487	△ 115,707	△ 243,780	

(3) 資金収支計算書

令和7年4月 1日から
令和8年3月31日まで

単位:千円

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	690,701	703,197	△ 12,496
手数料収入	19,689	20,640	△ 951
寄付金収入	4,880	5,425	△ 545
補助金収入	352,145	360,888	△ 8,743
その他の収入	358,806	231,214	127,592
借入金	0	71,536	△ 71,536
前年度繰越支払資金	367,261	367,261	0
収入の部合計	1,793,482	1,760,161	33,321
支出の部			
人件費支出	757,280	748,507	8,773
教育研究経費支出	373,800	362,336	11,464
管理経費支出	105,404	83,587	21,817
借入金等利息支出	11,179	10,227	952
借入金等返済支出	18,324	89,860	△ 71,536
施設関係支出	20,662	20,216	446
設備関係支出	15,990	14,793	1,197
その他の支出	△ 11,924	2,298	△ 14,222
次年度繰越支払資金	502,767	428,337	74,430
支出の部合計	1,793,482	1,760,161	33,321

(4) 財産目録

単位:千円

科 目	令和7年度末	
1 資産額		
1.基本財産		
(1)土地		
校地	65,085㎡	4,718,679
(2)建物		
校舎	16,661㎡	767,531
(3)構築物	160件	20,465
(4)教育用機器備品	8,920点	51,169
(5)管理用機器備品	686点	11,220
(6)図書	30,742冊	44,371
(7)車輛	9台	658
(8)退職給与引当特定資産		232,870
(9)その他の固定資産		9,064
2.運用財産		
(1)現金預金		
現金		160
預金・MMF		428,177
(2)未収入金		114,914
(3)前払金		37,833
(4)その他の流動資産		43,346
合 計		6,480,457
2 負債額		
1.固定負債		
(1)長期借入金		491,711
(2)退職給与引当金		133,699
2.流動負債		
(1)短期借入金		95,524
(2)未払金		137,800
(3)前受金		127,643
(4)預り金		123,373
(5)仮受金		0
合 計		1,109,750

(5) 資金収支・事業活動収支対比

(1) 資金収支計算書

収入の部

科目	決算
学生生徒等納付金収入	703,197
手数料収入	20,640
寄付金収入	5,425
補助金収入	360,888
その他の収入	231,214
借入金	71,536
前年度繰越支払資金	367,261
収入の部合計	1,760,161

支出の部

人件費支出	748,507
教育研究経費支出	362,336
管理経費支出	83,587
借入金等利息支出	10,227
借入金等返済支出	89,860
施設関係支出	20,216
設備関係支出	14,793
その他の支出	2,298
次年度繰越支払資金	428,337
支出の部合計	1,760,161

(2) 事業活動収支計算書

1. 教育活動収支

	決算
学生生徒等納付金	703,197
手数料	20,640
寄付金	5,425
補助金	360,888
その他の収入	128,369
教育活動収入合計	1,218,519
人件費	748,507
教育研究経費	460,320
管理経費	87,606
教育活動支出合計	1,296,433
教育活動収支差額	△ 77,914

2. 教育活動外収支

受取利息・配当金	566
借入金等利息	10,227
教育活動外収支差額	△ 9,661

3. 経常収支差額(1+2)

経常収支差額	△ 87,575
--------	----------

4. 特別収支差額

特別収入	1,848
特別支出	288
特別収支差額	1,560

5. 事業活動収支(3+4)

基本金組入前当年度収支差額	△ 86,015
基本金組入額合計	△ 29,692
当年度収支差額	△ 115,707

2. 令和3年度以降の財務状況経年比較表

(1) 貸借対照表

(単位:千円)

資産の部	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
固定資産	7,003,782	6,350,323	6,073,870	5,996,704	5,856,027
流動資産	224,456	287,023	381,006	557,712	624,430
合計	7,228,238	6,637,346	6,454,876	6,554,416	6,480,457

負債の部

固定負債	654,519	583,066	581,389	679,572	625,410
流動負債	418,194	342,112	305,806	418,121	484,340
合計	1,072,713	925,178	887,195	1,097,693	1,109,750

純資産の部

基本金	10,202,938	10,242,114	9,682,211	9,695,788	9,725,479
繰越収支差額	△ 4,047,413	△ 4,529,946	△ 4,114,530	△ 4,239,065	△ 4,354,772
合計	6,155,525	5,712,168	5,567,681	5,456,723	5,370,707

負債及び純資産の部合計

合計	7,228,238	6,637,346	6,454,876	6,554,416	6,480,457
----	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

(2) 事業活動収支計算書

(単位:人)

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生徒数(5月1日付)	872	923	877	847	854

1.教育活動収支

(単位:千円)

学生生徒等納付金	716,958	730,613	702,015	691,055	703,197
手数料	19,782	20,280	19,762	19,008	20,640
寄付金	4,491	2,710	1,140	4,438	5,425
補助金	370,721	347,371	344,587	341,208	360,888
その他の収入	60,012	34,273	35,852	81,005	128,369
教育活動収入合計	1,171,964	1,135,247	1,103,356	1,136,714	1,218,519
人件費	743,749	702,366	689,382	709,461	748,507
教育研究経費	407,876	434,586	424,489	430,603	460,320
管理経費	91,636	94,096	96,254	101,893	87,606
教育活動支出合計	1,243,261	1,231,048	1,210,125	1,241,957	1,296,433
教育活動収支差額	△ 71,297	△ 95,801	△ 106,769	△ 105,243	△ 77,914

2.教育活動外収支

受取利息・配当金	162	274	465	532	566
借入金等利息	8,568	8,834	7,154	7,583	10,227
教育活動外収支差額	△ 8,406	△ 8,560	△ 6,689	△ 7,051	△ 9,661

3.経常収支差額(1+2)

経常収支差額	△ 79,703	△ 104,361	△ 113,458	△ 112,294	△ 87,575
--------	----------	-----------	-----------	-----------	----------

4.特別収支差額

特別収入	3,213	10,293	1,933	1,496	1,848
特別支出	2,520	349,289	32,961	160	288
特別収支差額	693	△ 338,996	△ 31,028	1,336	1,560

5.事業活動収支(3+4)

基本金組入前当年度収支差額	△ 79,010	△ 443,357	△ 144,486	△ 110,958	△ 86,015
基本金組入額合計	△ 20,020	△ 39,176	△ 32,079	△ 13,577	△ 29,692
当年度収支差額	△ 99,030	△ 482,533	△ 176,565	△ 124,535	△ 115,707

※各年度の補助金収入及び教育研究費支出には、下記の修学支援分補助金を含んでいる。(単位:千円)

令和3年度 105,472 令和4年度 104,905 令和5年度 98,808 令和6年度 106,037 令和7年度 115,548

(3) 資金収支計算書

(単位:人)

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生徒数(5月1日付)	872	923	877	847	854

収入の部

(単位:千円)

学生生徒等納付金収入	716,958	730,613	702,015	691,055	703,197
手数料収入	19,782	20,280	19,762	19,008	20,640
寄付金収入	4,491	5,571	1,140	4,438	5,425
補助金収入	372,129	354,282	345,300	341,208	360,888
その他の収入	9,490	293,113	191,884	72,099	231,214
借入金等収入	174,000	0	61,200	181,200	71,536
前年度繰越支払資金	112,466	118,352	196,039	292,963	367,261
収入の部合計	1,409,316	1,522,211	1,517,340	1,601,971	1,760,161

支出の部

人件費支出	742,356	702,366	678,711	702,618	748,507
教育研究経費支出	298,554	327,765	320,633	327,536	362,336
管理経費支出	86,769	89,091	92,196	97,889	83,587
借入金等利息支出	8,569	8,835	7,155	7,583	10,227
借入金等返済支出	108,900	80,320	68,522	69,524	89,860
施設関係支出	66,215	27,679	14,582	4,937	20,216
設備関係支出	33,824	21,455	18,622	21,408	14,793
その他の支出	△ 54,223	68,661	23,956	3,215	2,298
次年度繰越支払資金	118,352	196,039	292,963	367,261	428,337
支出の部合計	1,409,316	1,522,211	1,517,340	1,601,971	1,760,161

※各年度の補助金収入及び教育研究費支出には、下記の修学支援分補助金を含んでいる。(単位:千円)

令和3年度 105,472 令和4年度 104,905 令和5年度 98,808 令和6年度 106,037 令和7年度 115,548